

令和元年度

横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、
ふだん農業に対して思っている
ことを作文、図画にしたものです。
ぜひとも、子どもたちの純粋な
気持ちを感じてみませんか。

目次 (Contents)

食農教育の推進に向けて・・・P2

作文の部

最優秀賞・・・P3

優秀賞・・・P4～8

図画の部・・・P9



横手市農業委員会

食農教育の推進に向けて

横手市農業委員会

当会では、多様な農業情勢に対応するため、二つの委員会を設置しています。その中の、広報・食農推進委員会では、食育教育

に必要な情報提供活動や、地域における実践活動を推進しており、その一環として、教育委員会と連携し、「横手食育見聞録作文・図画コンクール」を平成十八年から継続して実施しています。

今回で十四回目となるこのコンクールは、小学生が自ら「食」について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全な食生活を実現することが、心身の発育上、大切であるとともに、ひいては今後の農業振興に役立てるためとしております。

また、総合学習等に基づき、何らかの農業に関する学習を実践している小学校五年生を対象に「自らの農業体験」や「ふだん、

農業について感じていること」を作文、図画にいただき、優秀作品については表彰するとともに、広報誌「横手市農業委員会だより」への掲載や令和元年十月二十日から大館市で開催された「秋田県種苗交換会」で展示するなど広く公開し、市民に食育の重要性を働きかけてまいりました。

今回、応募作品が作文の部で百八十八点、図画の部で百九十九点あり、十二名の審査員による審査の結果、作文の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、図画の部で最優秀賞一点、優秀賞五点が決定したところです。

今回の作品も選考段階で甲乙つけがたい内容であったとともに、作品を通じて、小学生の視点から見た農業に対する思いを、ぜひともご覧いただければと思います。

この作品を通じて今一度食について考え、家庭における規則正しい食生活が大切であることを考えていただく機会として、この作品集が何かのお役にたてれば幸いです。

横手食育見聞録作文コンクール

最優秀賞

守りたい！これからもずっと

雄物川小学校

中山 なかやま

里桜 りお

雄物川町は、すいかが名産です。私は、四年生の総合の学習で、すいかづくりを体験しました。苗植えから収穫まで、たくさんの作業があり、すいかを育てる農家さんたちの願いや思いも知りました。収穫したすいかは、一個一個丁寧に人の手で運びました。その時、実がずっしり詰まったすいかの重みと、農家さんたちのすいかへのあふれる思いが感じられました。そして、そのすいかは、地域の方々へふるまったり、販売したりしました。食べた人の笑顔を見ると、すいかづくりをがんばった達成感を味わいました。

また、今年の夏には、横手駅で雄物川のすいかを帰省する方たちにふるまいました。雄物川町のすいかのおいしさをPRする活動です。試食した方たちは、「あまいね。」「おいしいね。ありがとう。」と言ってくれました。自分の町の自まんのすいかを、たくさんの人たちに知ってもらえたことが、とてもうれしかったです。

さらに、私は、もっとすいかを広めたいと思い、社会科研究発表会に出ました。テーマは「わたしの町のじまんのすいか」です。農協の皆さんに、雄物川町がすいか栽培に適している理由を聞いたり、品種改良について教えてもらったりしました。他に、すいかの歴史等も調べました。すいかについて、新たな発見につながりました。特に、『秋田夏丸チツチエ』という小玉すいかの誕生について詳しく知ることができました。すいかについて調べると調べてだけ新しいことが分かり、おもしろいなあと思いました。

自まんのすいかですが、今はすいか農家が減ってきているそうです。私は、自分の町のすいかを守っていくために、どんなことができるのか考えました。PR活動を繰り返し行ったり、すいかを利用した料理を考えたり、すいかのおいしさを伝えるなど、私にできることを考えて実行していきたいです。



優秀賞

大切な食に感謝

大雄小学校 こたなき 小棚木 せしる

私は五年生になって初めてお米をつくりました。田植えやいね刈りを手作業でやったりする体験やカントリーエレベーターの見学などお米のことをたくさん知りました。そのような活動を通して感じたことがあります。それは食の大切さや食べ物を作っている人への感謝です。今まではあまり食の大切さなど感じなかったけど自分が育てることによって苦ろうや大切さなどが分かりました。だから食べ物をつくったりするのはかんたんなことじゃないし、感謝しながらいただきますを毎日いただいているのです。そして農家の人たちがやらずさわっている人たちは毎日一生けん命、私たちに食べ物をとどけるために働いています。そんな人たちがいるから私たちは今、食べることができ、生きていくことができます。食べることはかんたんなのかもしれないけれど、それには大きな苦ろうやつくっている人の思いがあります。私はこれから毎日食べ物をいただくときに心をこめて「いただきます。」「ごちそうさま。」を言いたいと思います。

そして食べることはかんたんなことじゃないということ

も同時に知りました。世界には今の私たちのように毎日安定して食事をすることができない人もいます。なかには食べ物をかくほするのがむずかしい子どもたちもいます。なので私は、より食べ物の大切さが分かりました。食事できることもふつうのことじゃない。私はこのことも頭にいれて日々感謝をわすれずに生きていきたいと思いました。



優秀賞

おばあちゃんの野菜

雄物川小学校 黒政くろまき 寧々ねね

私のおばあちゃんは、もうすぐ九十一才になります。そして、家のうらには、おばあちゃんの畑があります。畑には、きゅうりやなす、ピーマンなどのたくさん野菜が植えられています。

毎年、おばあちゃんが一人で種まきから収穫までをしています。ほとんどの野菜が六月から八月に収穫されます。その頃の我が家の食卓は、おばあちゃんの野菜でカラフルになります。私は、シャキシャキしたみずみずしいきゅうりが大好きです。また、収穫した野菜を、お母さんが料理をします。ピーマン、なす、トマト、枝豆など色とりどりの野菜が料理され、家族みんながおいしく食べています。私も、時々お手伝いをしています。この野菜がどんな料理になるのか楽しい気持ちになります。

今では野菜が大好きな私ですが、以前は好ききらいがあり、その中でもピーマンが大きらいでした。でも、ある出来事をきっかけにピーマンが食べられるようになりました。それは、おばあちゃんと一緒にピーマンを育てたことです。毎日ピー

マンを見て、その成長をみているうちに、ピーマンの変化を見るのが楽しみになりました。そして大きくなったピーマンを収穫し、料理をして食べました。自分で育て、料理をすることで、野菜はこんなにもおいしくなることにおどろき、感動しました。ピーマンから始まった畑のお手伝いも他の野菜へと広がっていきました。

おばあちゃんの野菜のおかげで、野菜のおいしさに気づくことができました。これからも、おばあちゃんの野菜を食べていきたいと思っています。そのために、もっとできる限りのお手伝いをするともに、農業に関する知識を高め、野菜作りに役立てていけたらいいと思います。



優秀賞

家の畑

醍醐小学校

齋藤

羽奈

私の祖父と祖母は、畑で野菜を育てています。暑い夏の日には、育てた野菜を家族みんなで食べています。それらの野菜は、苦勞して育てたことが見ただけで分かります。

祖父母は、暑い日に畑を耕し、一つずつ手作業で苗を植えていきます。そして、ていねいに水をまきます。野菜を大切に育てる気持ちで、いつも伝わってきます。そして、いつの間にか私にも家族にも、野菜を大切に育てる気持ちが芽生えていきました。

でも、大切にし、苦勞して育てた野菜も全てが無事に収穫されるわけではありません。台風が来ると、畑はあらわれます。野菜は傷がつき、食べられなくなってしまう。雨が降らないと、祖父母たちがまく水だけでは足りなくなり、野菜がかわれてしまいます。そのたびに、祖父母は心を痛めていました。そして、同じ思いを農家の人ももっていました。計り知れない苦勞を経て育てた野菜だからです。だから私は、一つ一つの野菜や米、魚、肉、果物などを大切にしたいと思います。

いつも何気なく食べている食事には、全て命があったものたちが集まっています。それをむだにするということは、命をむだにするということです。魚や肉は、私たちのために命をうばわれて食料になりました。野菜は、私たちに食べられるために生まれました。たった一つのお米も同じです。一つ一つの命をいただきながら、私は生きていくのだと思います。

一つの命を生み出す畑が、我が家にはあります。その畑を、私たち家族は大切にしています。



優秀賞

米一粒一粒を大切にしてい

雄物川小学校

佐藤

結唯

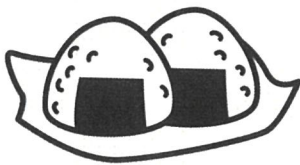
みなさんは米一粒一粒を大切にしてい食べていますか。米一粒には、大切な栄養があります。

私は学校の総合の勉強で、五年生全員と農業をやっている人達で、田植えや稲刈りをしました。田植えでは、機械などを使わずに苗を植えました。初めは、田んぼにそのまま入るのがいやだったけれど、はいつてしばらくするとだんだん楽しくなってきました。大変だったのは、ずっと下を見て植えていっていたので、こしが痛くなつたところす。一列だけでも、思っていたよりも大変だったので、二列目、三列目はへとへとになりました。稲刈りでは、かまを使ってみんなで交代しながら稲を刈りました。田植えをした時と比べるとかなり大きく育っていて、とてもうれしかったです。稲はとても強くて、刈り取るときはかなり力を入れないと刈れませんでした。だから、台風の大雨や、強い風にも負けずに育つことができたんだなあと思いました。米の強さに改めて驚きました。

みんなで育てた米をふれあいPTAでおにぎりにして食

べました。米はもちもちとしていてとてもおいしかったです。がんばったかいがあったなあと思いました。私の父ももち米を作っており、それを干しもちにして売っています。干しもち作りの大変さと、よろこんでもらえたときのやりがいがい少しだけけれども分かったように思います。

このように米は、人々が協力して作られていて、大変な思いをすることもあるけれど、おいしく食べたり、よろこんでもらったりすると、とてもやりがいを感じられるということが分かりました。私は農業で働いている人達ががんばって作ってくれた米の一粒一粒を大切にしてい、食べていきたいと思



優秀賞

感謝の気持ちを込めて

吉田小学校
高橋 たかはし
徹太 てった

ぼくたちの住んでいる横手市には、たくさんのおいしい食べ物があります。お米や野菜そして果物。ぼくは、おいしい物がたくさんある横手市が大好きです。

果物が好きなぼくは、去年、家の畑でメロンとすいかを植えて育てました。いつ実になるのかワクワクしながら水やりや草むしりをしました。実がで始め、ぼくのワクワク感はいっぱいでした。しばらくして見に行くと、あったはずのメロンとすいかがなくなっていました。カラスに食べられていたのです。ぼくは一気に悲しくなり泣きたくなりました。よく見ると一つだけ葉っぱの中にかくれていたメロンを見つけ、そのメロンを大切に収穫しました。そのメロンは小さかったけど、味はとても甘く、家族のみんなも「おいしい」と言って食べてくれました。カラスに食べられた時は悲しい気持ちでいっぱいだったけれども、たった一つ残ったメロンを、おいしいと言って笑顔で食べてくれた家族の顔を見たら、ぼくの気持ちは笑顔になりました。

食べ物を育てるとするのは、簡単なことではありません。

虫や動物などに食べられないようにする対策をしたり、水やりや草むしりなど毎日お世話をするからこそ、おいしい食べ物ができるのです。農家さんの細かい心配りや、努力があるから、今のぼくたちは毎日色々な食材をおいしく食べられます。

ぼくは、これからは前よりももっと食べ物を大切にしていきたいと、心に強く思いました。生産者のみなさんの思いや願いを、しっかりと受け止めて今ぼくができることを考え行動していきます。毎日の家での食事や学校での給食、作ってくれるそれぞれの人たちに感謝の気持ちを忘れずに、残さないうで一つ一つ味わって食べていきたいです。

生産者の人達の努力を忘れないで、農業に対して感謝できる人にぼくはなりたいです。



第14回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品

【最優秀賞】横手北小学校5年 照井 虹葉さん
「くり拾い」



【優秀賞】吉田小学校5年 神谷 寧さん
「きゅうり作りが上手な2人」



【優秀賞】山内小学校5年 橋本 愛海さん
「自分の家のビニールハウス」



【優秀賞】横手北小学校5年 羽石 獅穂さん
「自然のめぐみ」



【優秀賞】植田小学校5年 小松 実結さん
「十文字の味覚」

【優秀賞】醍醐小学校5年 阿崎 湊大さん
「食べ物に感謝」

